

平成30年度 第7回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成31年1月25日（金）

午後0時30分～2時30分

【会場】富士市交流プラザ 2階 多目的ホール

1 出席者

- ・ 発言者 富士市において様々な分野で活躍中の方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 160人

2 発言意見

番号	分野・所属	項目	頁
発言者 1	地域振興	商店街でのイベント企画、吉原祇園祭の開催	3
2	スポーツ振興	Eマウンテンバイクを活用した地域振興	6
3	子育て	子育てしやすい地域づくり	11
4	多文化共生	在日外国人の子どもや家族への支援	14
5	食品製造業	下請けからの脱却を狙った新商品の広報	21
6	建築業	レーザーを使ったサビ取りの新技術開発	23
傍聴者 1	—	インフルエンザ対策ほか	29
2	—	未病について	30

【川勝知事】 皆様、どうもこんにちは。寒い中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

この広聴会というのは、県の意見を広報するというのと反対でして、広く聴くということでございます。富士市の6名、男女3人ずつ富士市の方から選んでいただきました代表者の方々の御意見をお聞きして、それを富士市のため、又は県政のために役立てようというものでございます。

聞きっ放しになるんじゃないかと思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、そうではありません。お聞きしたことで、すぐ答えられることは私の方でお答えします。仮に御要請があった場合には、それを持って帰る。それから答えられなかった場合には、それを必ず後日御返答申し上げます、1つも聞きっ放しにしないということにしております。

今富士市は上り調子といたしますか、富士市と言えば製紙業のまちだというイメージがあるんですけども、今はお花のまちでもあるようですね。きれいなお花を飾っていただきましてありがとうございました。ともかく製紙業のまちとして天下に名をはせた所ですけども、ペーパーレスというのも進みつつあります。

皆さん、CNFって御存知ですか。セルロースナノファイバーといいまして、繊維を砕きまして、もう小さな小さな微粒子にして、それを固めるという、それをセルロースナノファイバーとといいます。これは鉄の5分の1の軽さで、鉄の5倍の強さを持つもので、これが世界を変えるとされていますが、その日本における最大の拠点はこちらにございます。

それから、シラスも「田子の浦しらす」という地域名を、地名を冠してシラスを売ることができるといふ認定をされたとか、田子の浦の美しい公園も整備されまして、ディアナ号も博物館になっている訳でございます。

それから皆さん方、ここは地方交付税の不交付団体といたしますか、非常に豊かな所だと知っておriましょうか。だから中核市になろうかという所まで、そういう話ができるぐらい、しかもまた沼津と一緒に連携しようとかいうことで、前向きの姿勢が目立っている所ではありますが、一方交通の面で富士川橋、新富士川橋ございますが、今、新々富士川橋を県議会の御協力を賜りながら予算を通して、着実に渋滞解消のためにやっているということもございます。

それから、皆さん御心配なされた常葉大学の移転。どうなるかということで心配されていましたが、御殿場の企業がこちらに来て、今年中、少なくとも1両年の間にホテ

ル並びに合宿所みたいにして、スポーツの交流拠点にするという案が関係者の間で合意されまして、スポーツにこれから関心が集まる時代でございますから、その拠点にもなるというふうなこともございます。

そうした追い風の吹いている中での富士市の問題もきっとあるに違いありません。あるいは富士市について御宣伝なされたいこともあるかもしれません。今日は6人の皆様方からしっかりと御意見を承り、時間があれば会場の皆様方からも御意見を伺いたいと思っております。2時間、なかなか長い時間ではございますけれども、しばらくの間お付き合いくださいますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

【発言者1】 皆様、こんにちは。御紹介いただきました内藤金物店の発言者1と申します。

この配られた紙では、内藤金物店6代目と書いてありまして、内藤金物店を継いで働いております。あと吉原商店街のお店ですので、商店街振興組合青年部YWCということで所属団体を記載しております。

お手元にお配りの資料で3つ吉原に関するものがありまして、これ「吉原祇園祭」という1枚ぺらの紙と、あと「おまちマップ」という短冊のような細長い紙と、左上に「あのみちこのまち」と書いてある折り曲げてある大きめの白い紙ですけれども、これは今日持ってきた資料なので、また家に帰って読んでいただけたらと思います。

簡単な自己紹介から、地域の代表として呼ばれているのかなというところで思っていますので、吉原のことなどをちょっとお話をさせていただけたらと思うんですけども、私は今33歳でして2児の父でございます。趣味はギターやドラムの演奏なんかが好きでやっているんですけども、ザ・スパイダースが好きで、いろいろレコードとかを聴いております。

そんな人間なんですけれども、内藤金物店6代目ということで、6代目というとそれなりに長いんですけども、創業は今年で141年なんです、明治10年創業。明治10年というと、なんかあまり身近な感じじゃないですけども、去年大河ドラマで「西郷どん」をやっていましたけれども、西郷さんが亡くなった年というのが明治10年なんです。と考えるとなんかとってもロマンがあるなど。

もしかすると東海道を幕末の志士たちも通っていたような時代、そして明治に変わって、そういった方々ももしかしたら吉原を通っていたのかなって、僕ちょっと歴史が好きなの

で想像しちゃうんですけれども、ただうちは吉原の中ではそんなに古いと胸を張って言える訳ではなくて、うちの斜め前の旅館は創業300年のお店で、うちの倍以上だったりですとか、近所の和菓子屋さんも江戸時代からやっていたらっしゃる。宿場町ですので、吉原宿という所で大変歴史のあるお店が多くある、そういう場所でお店をやっております。

金物店といってもどういう店か想像つかないかもしれないですけども、今フライパンを一生懸命売ってまして、周りの方からは、おかげさまで「フライパン王子」とか呼んでいただくこともあったり、誤解しないでいただきたいのは、僕が「こんにちは、フライパン王子です」と自分で名乗っている訳ではなくて、周りから言っていたくということです。そこで誤解なきようお願いしたいんです。今日は女性が大変多くいらっしゃるので、フライパンの話だけで1時間ぐらいしゃべりたいところなんですけれども、さわりだけちょっと触れると、フライパンは選び方だけで料理の出来が変わっちゃいますから、あとは使い方も長持ち具合が変わっちゃって、別に高いからどうかじゃなくて、使い方だけでも変わっちゃうんだよみたいな、そういう話をお店ではよくしておりますので、御興味ある方はぜひ内藤金物屋に来ていただければ説明いたしますから、質問事項とかあれば幾らでも、一番長い人で2時間ぐらい聞いていった人がいますので、きっと御満足いただけると思います。

それで、お店のことはちょっと置いておいて、僕はまちのことをちょっとしゃべりたいんですけれども、小さい時は吉原で育っていますけれども、大学は東京に行きまして、そのまま東京で就職して、IT関係の会社で働いていました。

5、6年ぐらい前にある理由で帰ってきて、お店に入って働いておまして、その一番の理由が、吉原祇園祭というお祭りのためです。僕はお祭りのために生きているようなそんな人間です。お祭りのために帰ってきました。ただお祭りが好きだから、わあわあ盛り上げたいという話だけではなくて、実は吉原では結構お祭りが地域として大きな特色がありまして、横のつながりが大変ある。商店街というとお店の連携がとれている所が多いと思うんですけれども、吉原は恐らく一般的な商店街以上に横のつながりがある。店主たちがみんなお祭りの青年をやっているんですね。なので、商店主仲間という以前に、お祭りの、魂でつながっているというか、そういう地域でございまして、元々僕はお祭りは毎年欠かさず参加していて、東京にいる時も必ず帰ってきて参加していたんですけれども、同じ町内の先輩はみんな商店主だった訳で、こういう商店主の方々と僕はもし帰ってきた

ら一緒に働くことになるのかというような、帰ってくる前から地域の仲間たちの顔が見えていてというような、そういう場所なんですよ。

なので、僕も帰ってきて働き出すと、商店というのは普通のサラリーマンとはちょっと違って、同僚というものがいないような感じなんですけれども、サラリーマンでいうところの同僚というような存在が、他のお店の店主たちだったりするので、連携して盛り上げていこうぜと生まれたのが、YWC、吉原若旦那C l u bという商店街青年部という組織で、これでいろんなイベントを行ったりしています。

宿場祭りというイベントですとか、来月、2月17日に「吉原まるごとマルシェ」というのがあるんですけども、そういったイベントとかを運営しております。あとは商店街のフェイスブックもYWCで担当してまして、まちのことを少しでも知っていただけたらなど、活動をしています。

そういう活動をしていましたところ、最初に紹介した「あのまちこのまち」というこれは北海道の新聞の記事なんですけれども、なぜか北海道から商店街に取材に来てもらいました。この取材の記者の方もおっしゃっていたんですけども、今、全国的に商店街の青年たちが壊滅状態だと。青年部というのがそもそもなかったり、幽霊化していたり、そういう所が多いそうなんですけれども、吉原は何か活発に活動していて、全国的にも大変珍しい場所ですねとお誉めいただいたりしたんですけども、それも何を隠そう、お祭りという地域に脈々と流れる血があってこそなのかなと思いました。

僕は特にお祭りが好きで帰ってきたんですけども、他にも若手後継者がちらほら帰ってきているパターンが吉原ではありまして、それプラス、外部の方、市内だけ吉原出身じゃないとか、県外から来てお店を開いている人も結構いまして、美味しい静岡おでんの居酒屋があったり、美味しいおしゃれなピザ屋さんができたり、若者たちが集まってビアガーデンを毎月やっていたり、いろいろ若者たちが吉原を遊び場としてとらえるような、そういった若い人たちが少しずつ出てきているというのが実情です。

そういったこともフェイスブックでも発信していますので、知っていただけたら良いなと思います。何かそういうまちのこともうちに来てもらえれば紹介します。

それで、せっかく知事もいらっしゃいますので、ちょっとだけお願い事というのがありまして、吉原祇園祭というのは「東海一の祇園」と呼ばれておりまして、富士市では大変メジャーなお祭りで、みんな「おてんのうさん」とか「祇園祭」とかって、御存知の方は多いと思うんですけども、なかなかPRしていくと、市外、本当に隣の沼津とか清水と

か静岡でもあまり知られてなかったり、県外でも知名度がないというところが、PRして
いて思うところです。もし静岡県の文化とか、静岡県のお祭りを発信するみたいな機会が
ありましたら、東海一の祇園があるんじゃないのかということで、知事の方からもプッシ
ュいただけますと幸いです。

そして、あと御来場の皆様にもちょっとお願いがありまして、今話したように、若者た
ちが出てきたり、その若者たちに触発されて、既存のお店も頑張ろうという機運が出てい
るのが吉原商店街でございます。なかなか1店舗新しいお店ができて、何となく見てい
ると気づきにくいことではあるんですけども、ぜひぜひ吉原だけではなくて、富士の商
店街もそうですけれども、近所のまち、きっと何か変わっていつていると思いますので、
まちに目を向けてもらえると、ちょっと気になったら入ってみようかと、気軽に遊びに来
ていただけると助かります。

フライパンを買うのはちょっとハードルが高いかもしれませんが、話を聞きに来るのは
ただですから、聞きに来てもらっても良いですし、インターネットを見る人は、商店街や
内藤金物店では、フェイスブックやインスタグラム、ツイッターもやっていますので、何
か、ああこんな感じでやっているんだと、吉原はお祭りとかいろいろあるんだという
のをぜひ気にかけていただけたら幸いです。以上です。

【発言者2】 皆さん、こんにちは。今御紹介いただきました社会福祉法人誠信会理事長
を務めております発言者2と申します。

私、比奈の方で曹洞宗の玉泉寺というお寺の住職をしていますので、社会福祉法人の理
事長とお寺の住職ということで今務めさせていただいております。

私の方ですけれども、皆さんの方に資料がお手元にあると思いますけれども、マウンテ
ンバイクと富士山の写真が表紙の所にある資料でございます。こちらの資料で話を進めさ
せていただきます。

本日は社会福祉法人誠信会のNINOMARU villageという地域公益活動を紹介させていた
だきます。

さて、社会福祉法人には平成28年の社会福祉法改正で、地域における公益的な取り組
みを実施する責務が明示されました。これによって社会福祉法人が地域社会に貢献する組織
として新たなスタートが始まったということになりました。そこで、誠信会ではNINOMARU
villageという地域公益活動をスタートさせました。

まず NINOMARU village という名前の由来ですが、昭和 12 年、占い師二の丸の神のお告げに従い、日本の軍部を巻き込み、井戸を掘ったという史実に基づきます。そして誠信会の NINOMARU village は、この跡地にあります。

皆さん御存知だったでしょうか。富士山麓で大戦前に石油を掘ったということで、今日、本を持参したんですけれども、こちらの『水を石油に変える人—山本五十六—不覚の一瞬』ということで、こちらの第 6 章に「富士山麓油田の怪」ということで、その当時のことが書かれています。

こちら写真がございませうけれども、その時の宿舍みたいなものが誠信会に写真として今でもございませう。あとは新聞等、古い記事が残っているのでもございませうけれども、何せ油田が出ませんでしたので、こちらの方はなかったことに歴史の中に埋もれてしまったということでもございませう。

さて、NINOMARU village ですが、NINOMARU village には、社会資源として石油発掘に由来する井戸水、富士の大自然、富士山の山の幸が豊富にあります。

現在、この社会資源には、富士山登山ルート 3776、ちょうど富士市が推進しています 3776 のルート、こちらが隣を走っておりますので、そこに隣接する土地になっております。ロードバイク、マウンテンバイクの自転車好きな人、オリエンテーリング、トレイルランニングの学生等、ボーイスカウトやスポーツ少年団等の子どもたちが集まっております。NINOMARU village は、その人と社会資源を結ぶことがテーマとなります。

そして、コンセプトとして、福祉と健康増進と地域振興を掲げ、富士山麓の大自然の中で、人と社会資源を結ぶ活動により、障害者や高齢者の雇用など、福祉の充実、アウトドアスポーツ等による健康事業の延伸、地域の活性化を目指しています。

また、NINOMARU village の目玉として「Eマウンテンバイクによる散走」を考えています。Eマウンテンバイクとは、平成 30 年より国内投入されたスポーツアシスト付き自転車のことです。充電時間 4 時間ほどで、約 100 キロほど走れるというものでございませう。「散走」とは自転車の散歩、社会資源を散策しながら、自転車で走ることです。Eマウンテンバイクで富士の自然、歴史や文化に触れ、地産の食や買い物を楽しみませう。

先ほど会場の入り口に自転車が飾ってあったんですけれども、あれが Eマウンテンバイクなるものでございませう。かなりのアシスト力がございませう。

Eマウンテンバイクの今後として、海拔 0 メートルから富士山ヒルクライムを楽しむ登山コース、一昨日、岳南電車の比奈駅から NINOMARU village、大淵の 683m の地点にござい

いますが、そこを通り過ぎまして1,000m付近まで行って、また比奈駅まで帰ってきました。それでも3時間半くらいでしょうか。それで結構楽に上まで行って帰ってくる事ができました。ですので、かなりの機動力があるかなと思います。特に富士市は交通機関が飢えたところがございますので、この辺を活用すれば、非常に有効な移動手段になってくるのかなと思います。

次の課題なんですけれども、富士山を見ながら食事や土産、歴史や文化を楽しむ地域コースということで、こちらの方も2度ほど散走しております。こちらの方で、やはり今日発言者1さんも来ております吉原商店街、こういう所も巡ることも可能ですし、今日はスイーツ工場の発言者5さんもお見えですので、こういう所もその「散走」のコースに入れながら、自転車に乗って健康増進、アシスト付きですので、私みたいにもう50を超えていても、非常に楽に移動しながら、そういう甘いものを食べたり、フライパンを買ったり、そういういろんなことを「散走コース」ということで、自転車はただこぐだけではなくて、いろんな場所に寄って、いろんなものを見たり、歴史や文化、食事や食べ物、そういうことをする、そういうような「散走」ということを今後もう少し考えられたらと思います。

Eマウンテンバイクツアーの課題として、ツアーガイドの育成、やっぱり知識がなければ御説明できませんから、そういうツアーガイド、知識を持ったツアーガイドの育成、「散走コース」の充実、NINOMARU villageこちらの方のまだ休憩所等をもう少し整備できたらなんて思っています。特に、ルート3776に隣接した所に外用のトイレが1つあると非常に便利かなというのはちょっと思っているところでございます。

まだスタートばかりのNINOMARU villageという地域公益活動でございますけれども、これから地域の貢献を担えるような活動になっていければなと思っておりますので、皆様の御協力とまた御指導をお願いしたいと思います。御清聴ありがとうございました。

【川勝知事】 発言者1さんと発言者2さんの方から、富士市の由緒あるまちと豊かな自然、それぞれお話いただきましてありがとうございました。

何しろ6代目、今33歳だそうですね、東京に行かれて、そしてしばらくお仕事をされて帰ってこられたと、この話がまず良いですね。その事情を聞きませんが、若い時は一度外に出てみたいと思うんじゃないでしょうか。しかし、20代の後半から30代前半になると好きな人が出て、その人と結ばれたいと。そうするとその方に自分の御両親を紹介しなくちゃいけないし、また相手方の御両親にも会いに行かなくちゃいけないと。

そうすると自分の両親のことを考えますね。それから両親はどうしているんだろう、店はどうしているんだろう、あの仕事はどうなるんだろうということを考えます。ですから一種の転機が訪れてくる訳ですね。

その時に私はふるさとを思い出させることができるそういう仕掛けをつくらなくちゃいけないということで、「30歳になったら静岡県」というのをつい最近始めました。そのいわば先駆者といえますか、モデルが発言者1さんかなと思った次第です。

そして、彼を惹き付けたのが祇園祭だということです。

東海道の宿場の中で、今に当時の宿場町の面影を残しているところが静岡県には22次あって、その中で吉原宿が最も最たるものじゃないかというふうに思いますね。そうしたものを象徴するのがこの祇園祭と。私は京都出身なんですけれども、祇園祭というのは、ただただ暑いと、ただただ混雑すると、そのイメージしか私にはありませんが、どうもここは違うみたいですね。

ですから、東海一のお祭りだということで、今、東海道が57次であったと東海道のPRをされてる方がいますので、それをこのお祭りと引っかけて誘致すると、街道文化の発信はできるかなと思いました。

ともあれ、6代目まで続いて、今2児のお父上になられているということで、7代目8代目と続くなという感じで、良い御家庭だなと。その御家庭を育てている吉原若旦那C1u bという青年のつながりがあって、そのつながりが非常に良い形でこの祭りを通してできている。

実は祭りと言っていますけれども、今我々静岡県は岩手県を応援しているんですが、大槌町とか山田町とか三陸海岸の所で、まちが津波で全部流されて、そうするとお宮さんも流されて、神輿もなくなって、そうするとまちの求心力がなくなるんです。だからどうしたかという、遠州の武田軍が滅びた時に、それを弔うお祭りをしたことがあって、それのお祭りを向こうに持っていったら、もう本当にまちの人たちに喜ばれました。祭りというのが、いかにそのコミュニティの核になっているかということ、東北で祭りができなくなった状況を知って痛感したことがございました。

フライパン王子ここにありということで、皆さんここに来れば吉原の情報が全部手に入ると。吉原からの情報は全部自分がやっていると。素晴らしい店主だと思います。こういう人たちが仲間をつくっているということで、吉原は安泰だということを感じた次第でございます。一緒にこの東海一のお祭りを盛り立てていきたいというふうに思います。

それから発言者2さんのお話は、発言者2さん、今日マウンテンバイクの話をされましたけれども、実は天皇陛下から御下賜金に社会福祉法人誠心会が県下で選ばれて、たしか2年前でしたかね、全然自慢されないので私の方から言っておきますけれども、静岡県を代表する人でいらっしゃいます。

そうした中で、3776の富士山のコースができました。それをどう楽しむかということで、たまたま来年はオリンピック・パラリンピックで、歴史上始めて以来、オリンピック・パラリンピックが静岡県で開催される。しかもオリンピック・パラリンピックの種目が自転車だということで4種目あるうち、3つが静岡県で行われます。

そのマウンテンバイクをここで楽しめますよということで、適度な運動で、またきれいな景色を、きれいな空気を満喫して帰ってこれるということで、心の掃除をこれですますよという、新しい曹洞宗の修行の1つだというふうに私は思いました。これEバイクを求めないと修行ができない。昔のお坊さんはお椀1つだったと思いますけれども、これからEバイクが要るというそういう時代になったと思ったりするぐらいです。

大事なことはトイレですね。そうです。歩くにしても、自転車で行くにしても、しかるべき所に清潔なトイレが要る、帝国ホテルを抜くほどのトイレが良い。

これはなぜこんなことを言うかという、皆さん東名と新東名で、PA、SA、全然違うでしょう。実は新東名のSA、PAで一番重視されたのはトイレです。あれNEXCO中日本がつくったものです。私はそのアドバイザーをしていました。ですから、できる前からいろんな施設を見せていただいたんですが、女性トイレは帝国ホテルを抜くというのがポイントだったんですよ。一番不浄なものを一番清潔にするというところから始まったんです。そういう哲学でつくられたのが新東名の休憩所であります。

ですから、この富士山に、できる限り清潔に、しかも自然に対してきちっと養生ができるようなそういうものが良いかなというふうに思います。発言者2さんと相談しながら、どういう所にそういう休憩施設を兼ねたトイレを設けるかというのは、重要な問題提起だったというふうに思った次第でございます。

それぞれ富士市の持っている宝ですね、伝統の宝と自然の宝というものを活用して、お祭りとお自転車という健康、福祉、心の掃除というのと兼ねてお話いただきまして、大変ありがとうございました。御礼申し上げます。

【発言者3】 およそだちの会の発言者3と申します。今日はお配りしている資料の一番最後についている資料を見ながら聞いていただければと思います。

およそだちの会は富士市を中心に、「働くママと親子で学ぶ」をキーワードに活動しています。私は夫と2歳と5歳の娘と富士市で暮らしています。私は製紙メーカーで新しい製品を開発する仕事をしています。入社してすぐに市内の製紙工場のパルプとマシンの現場で研修をしました。現場の皆さんが、もっと良い製品をつくろうと熱心に取り組む姿が、本当に素晴らしく、胸が熱くなりました。日本のものづくりってすごいなと本当に感動しました。そんな人たちと一緒に誰かの支えになる製品をつくりたい、そんな思いで日々新製品の開発に取り組んでいます。

富士市は子育てをするにはとても恵まれた環境です。緑豊かな公園、自然も豊かですし、何より美しい富士山を見ることができます。食育活動も活発ですし、保育園の先生方も非常に熱心です。最近子どもが楽しみながら自分で考える力を育むために試行錯誤をしてくださっています。

ただ、1人目を産んでから私にはママ友がいませんでした。私の仕事は夜遅くまでの仕事もあるし、出張もある、保育園のお迎えはいつも一番最後です。送り迎えの時間が違うと、お母さん同士は話をする機会がありません。我が家は夫も私も北海道出身です。仕事の関係で富士市に来ましたので、仕事と子育てについてちょっとした相談をできるお母さんはほとんどいませんでした。働いているお母さんどこにいるんだろうと思っていました。

そんなお母さんとのつながりが欲しくて、2人目の育休中に県が主催する育休プチMBAという勉強会や、アイセル21の静岡市女性会館主催の連続講座を受講しました。上司や会社の視点、ジェンダーや職務格差のこと、仕事の上で感じていた自分の課題が、多くの女性に共通していることを知りました。自分が学ぶことで目を背けてきた悩みと向き合い、前向きに仕事に取り組めるようになりました。

そんな話を保育園のお母さんにすると、実は同じ思いを抱えていたことを知りました。お母さんたちが緩やかにつながれる場、子どもを連れて学べる場をつくりたいと考えて、およそだちの会を立ち上げました。

去年は育休から復帰するお母さんに向けた講座や、働くを考える講座、コミュニケーションの講座、また地域の方々の力を借りて、親子で学べる講座を多数開催いたしました。

資料に活動内容が書いてあるんですけども、ヨガ教室をやったり、親子のクッキング

などもやっています。こういった活動を通して、少しずつ地域とのつながりができてきたことを実感しています。

私たちのおやこそだちの会が目指しているのは、子育て世代が生き生きと暮らす地域です。私たちの活動はお子さんを連れて参加できます。私は社会がちょっとだけ寛容になることで、小さな子を持つお母さんたちもできることがどんどん広がっていくことを実感しています。

お母さんたちは私が思っていた以上に、学ぶことや新しい世界を知ること、自分自身が一歩を踏み出すことに前向きです。子育て世代が生き生きと暮らす地域というのは、思いやりとお互い様の精神にあふれた、誰もが暮らしやすい地域になるのではないのでしょうか。

今日は皆さんと一緒に考えてみたい課題があります。

1つ目は、「働きたいのに働けない、働き続けられない問題」です。会の方からこんな声がありました。「子どもを育てながら無職の状態働きたいと思っても、仕事と保育の情報がなかなか得られない。仕事の紹介窓口で子育て中の人に積極的に紹介できる所はないと言われました。妊娠中も嫌がらせを受けて、仕事をやめてしまいましたけれども、何が何でもしがみつけばよかったと後悔しています」、こんな声があります。

今は空前の人手不足です。その一方で働きたいのに働けない人がいます。働くことを諦めてしまう人がいます。どうしたらこのギャップが埋められるのでしょうか。

女性は研修を受ける機会や、チャレンジングな仕事をする機会が、男性に比べて少ないことが知られています。特に小さな子を持つと、子どもが熱を出したらどうしよう、迷惑かけちゃうしなど、一歩引いてしまう人がいます。

ただ、私自身が実感しているのですが、子どもを持っても学び続けることで仕事のチャンスが広がります。相談することで不本意な選択をせず、働き続けることができます。保育と就労情報の一元化、学ぶ機会の提供、相談できる環境を整えていくことが非常に大切だと感じています。

私たちの会では、子どもを連れてスキルアップしたい、キャリアについて考えるお母さんたちのための講座を開催しています。今後もそういった活動に力を入れていきたいですし、これから働きたいお母さんたちへの情報提供もしていきたいと思っています。県でもぜひ力を入れて取り組んでほしいと思います。

2つ目は、「お母さんは病院に行けない問題」です。今のお母さんたちに癌検診に関す

るアンケートを行いました。自分が十分に癌検診を受けていると回答した方は25%です。75%のお母さんは、自分が十分に受診できていないと感じています。

行けない理由のトップは何だと思いますか。44%のお母さんが子どもを預けられないと回答しています。富士市は大手企業がたくさんあり、転勤族の多い地域です。ちょっと預けられる先がないお母さんがたくさんいます。また、特に忙しい働くお母さんや、小さい子を持つ親は、自分の体のことを後回しにしがちです。そんなお母さんたちが受診しやすい仕組みづくりを願っている、そんな声を行政にもお届けしていきたいと思っています。例えば、県でも日曜日の検診や、託児付きの検診などの需要について考えてみてほしいと思います。

3つ目は、「働くお母さんクタクタ問題」です。働くお母さんが無理せず、安心して働ける環境というのを考えてみたいと思っています。実は今週、日曜日、私の上の娘がインフルエンザにかかってしまって、今週は会社の方にもサポートしていただいて、病児保育室にお世話になり、夫と出勤時間をやりくりして、何とか乗り切りました。今日はここに来れないんじゃないかなと心配になるぐらいだったんですけれども、今この場に座らせていただいていることにすごくほっとしています。

川勝さん、もし今自分が保育園からお迎えに来てくださいと電話が来たらどうしますか。保育園の急な呼び出しで、どうしても休めない場合は、おじいちゃん、おばあちゃんに頼むという方が大勢いらっしゃると思います。でも近くに祖父母がいない人が頼れるサービスはありません。おじいちゃん、おばあちゃんが近くにいないと、思う存分働けない社会で良いのでしょうか。

小学校では警報が出ると学校がお休みになります。子どもの預け先がないと困っている方がたくさんいます。学校はお休みになっても、会社はお休みになりません。子どもたちのために学校を部分的に開放することは難しいでしょうか。塾や保育園、学童などと連携したサービスでも良いでしょうか。自治会で公会堂を開放して見守りの場をつくることに取り組んでも良いかもしれません。子どもを一般の方が預かるファミリーサポートは、提供会員がまだまだ足りていません。

そして、こういった子どもが熱を出したりした時に、仕事をお休みするのは多くが女性です。女性活躍が進み、働く女性が増えてきました。でも家事も育児も全力でやって、仕事もやってでは、本当にくたびれてしまいます。内閣府の資料によると、6歳未満の子を持つ親の家事・育児関連時間は、女性が7時間半、男性は1時間半です。

今日ここにいらっしゃる皆さん、お子さんが小さかった時はいかがでしたか。今子育て中の皆さんはいかがですか。男性側のワークライフバランス、特に子育て世代と、その上司世代の働き方改革がまだまだ必要だと感じています。県庁の皆さんは何時に帰宅されますか。もっともっと私たちの会でも勉強会を開催して、家庭内での男女共同参画を進めていきたいと感じています。

最後に、会場の皆さんにもお願いがあります。子どもを育てている親は、みんなそれぞれ頑張っています。今日は誰とも話をしなかった、そんな日のあるお母さんもいます。スーパーでちょっと声をかけてもらえること、重い荷物と子どもを抱っこしている時に手を貸してくれること、本当にちょっとしたことが、そんなお母さんたちの支えになります。そういうちょっとしたことの積み重ねが、子育てしやすい地域をつくるのではないのでしょうか。

私は富士市が、静岡県が日本で一番子育てしやすい地域になると良いなと思っています。娘たちが大人になった時、仕事も子育ても自分らしく楽しめる富士市であってほしい、静岡県がそんな県になると良いなと思っています。どうもありがとうございました。

【発言者4】 皆さん、こんにちは。私は日系ブラジル人で、33年前に来日しました。そのころはまだ出稼ぎの方たちはいらっしゃいませんでした。

私は、ブラジルにおじいちゃん、おばあちゃんが移民して、その孫にあたる者です。ブラジルではおばあちゃんと日本語を時々話していました。そのようなことで自分としてはよっぽど日本語を知っていると思って日本に来ました。

だけど、おばあちゃんたちが使っていた日本語は戦前のものなのです。で、日本に来て話した時に、「すみません、今日本ではそういう言葉は使いません」と言われてショックでした。

それと、ブラジルで私たちは日本人として生活してきているのです。どこに行っても、ジャポニーゼニアと言われる。ジャポニーゼニアというと日本人という意味なんです。

そういうふうにしてきているのに、日本に来たら「あなたは外人です」と言われた時に本当にびっくりしました。自分は本当は何人なのでしょう。そこでちょっと気持ち的に沈みました、日本人だと思っていたのに、実は日本人じゃなかったということで。

うちの父親はものすごく厳しい人だったのです。みんなに「うちは日本人だから親の顔

に泥を塗るようなことをするな」とか、「後ろ指を指されるようなことはするな、日本人だから」と言われて私たちは育ってきました。

そのように育てられましたけれども、日本に来るとまたちょっと変わっていたので心配になりました。でも、それはその来た時の話で、今ではもう全然問題ありません。

平成3年ごろ、浜松出身の方で、ブラジルで長年司祭をやっている方と話をしました。仕事を探してくれると言ったのですが、ある時電話が来て、「悪いけれども富士には誰も知っている人がいないので、仕事紹介すると言ったけれどごめんね」と言われ、「私、大丈夫ですよ、仕事しているから」と言ったのです。

そしたら、「あなたのことは心配していません」と言われました。自分が心配しているのは、今困っている外国人だと。その時に初めてあらそうだったのかと思いました。それから吉原聖母幼稚園内にあるカトリック教会で外国人支援を始めました。

その中でいろんなお話を聞きながら情報を得ました。8歳くらいの子をブラジルに置いて、夫婦で働きに来ていた方から、「子どもに電話するたびに自分は苦しい、悲しい。子どもを日本に連れてきたいけれども、人材派遣会社と相談したら、連れてきても良いけれど、日本語がわからないから託児所に入れないとだめだよと言われた」と。そこで、私、吉原小学校に相談に行ったのです。そしたら、「義務ではありませんが、小学校は受け入れます」と言ってくれました。

それから、他の人たちも相談に来るようになって、少しずつ小学校にも入るようになりました。

そういうことがいろいろあって、いろんな相談があった時に、私ちょっと何かできないのかしらと思いつつながら、富士市役所の教育委員会に行ったのです。

そして話をすると、ちょうど県の委託で吉原小学校に国際教室というものができたのです。それが平成5年のことです。その時に教育委員会の方が、「もし必要だったらお手伝いしていただけますか」と言われたので、「喜んでお手伝いさせていただきます」と言って、それから関わり始めました。そのころからずっと私は外国人の児童生徒と関わっています。

私が一番感じているのは、今もう子ども達は3世代目になるのです。2世代目の子どもたちにも、もう既に子どもがいて、その子どもたちがもう学校に行っている年です。でも日本語が上手に話せてわかっているかといったら、そうでもありません。

もちろん全然問題なく、3世代目の子で、お父さん、お母さんは中卒ですけれども、子

どもは高校に行っている子もいます。また、ブラジルから小学4年生で来て、それで大学に入った子もいます。だからすごく優れている子もたくさんいます。だけど私が思うのには、それは私たち大人、出会った大人がどう関わるかで、その子どもの人生も変わるのじゃないかなと。

私が言いたいことは、生まれながら、そういう言葉のハンディを持っている子どもたち、家の中には日本語の文字があまりありません。それなのに同じ土俵で戦わないといけません。だからその子どもたちにもう少し手を差し伸べてほしいです。富士市には加配の先生とって、取り出し授業ができる学校は2校しかありません。

だけど、今富士市ではたぶん、全校に外国人の子どもがいます。ひとりふたり教室の中に子どもがいても、先生は何もしてあげられません。35人の中のひとり、33人の中のふたりといたら、先生はとても手が回りません。それは私たち現場で働いてよくわかります。私たちもたくさんの学校を回っていますけれども、そこで何ができるかと思ったら、大したことはできません。本当のことを言います。だから学校と相談しながら、「今日はどうしましょうか」「この子、今日ちょっと保護者と問題があったり、子どもがこういうことで困っているのに対応してもらえますか」とか、そこで母語を使いながら保護者とお話したり、来たばかりの子どもたちの初期支援もしたりしています。

吉原小学校に午後通える子は良いです。私も1時からいるので、「富士市の学校のやり方」をいつも言うのです。「富士市の学校ではこういうことだよ、だからせつかく富士市に来たのだからこういうふうにしましょう、ああいうふうにしましょう」と言いながら指導しています。

結構お母さん方は、私がすごく厳しいと言います。確かに厳しいです。やはり私たちとしては、ちゃんとした子どもを育てないといけないと思います。やはり社会に出た時に通用する大人を育てないといけないと思います。それは私たちの仕事だと思っています。

大人になった子どもたちに結婚式に呼ばれて行った時にも、「あなたたち、みんな真っ直ぐな道歩いてくれてすごく嬉しいよ」と言ったら、「いや、そうじゃなくて発言者4が怖かったから悪いことできなかった」なんて言われまして、ちょっとショックを受けました。でもそういうふうになんとかちゃんとした子どもを育てたいと私はいつも思っています。

先ほど子育て支援、親子の支援のお話が出ましたけれども、外国籍のお母さん方もそれが不要じゃないかなと、私最近すごく思っているのです。一人で悩んでいる人、おうちで夫とも話ができない、子育てのことで対立して、それでお父さんはいつも良い顔ばかり

子どもの前でしているという、すごく悩んでいるお母さんたちがいらっしゃいます。だから本当に、子育て支援のお話は外国籍の保護者にも当てはまることじゃないかなと思っています。

外国籍のある女の子が私にこう言いました。「私って2度親に捨てられた」と。「どうということ？」と言ったら、初めに私は置いてこられた、ブラジルの親戚の所に置いてこられた。親は親戚に私のためにお金を送っていたのに、私なんて何もしてもらえなかった。

やっと日本に来られるようになって、ちゃんと親子で過ごせると思っていたら、すれ違いばかり。自分が家にいる時に親はいない。または寝ている。それで「2度捨てられた」と言ってきました。

だから私たちの仕事は、子どもたちの悩みを聞いてあげることではないかなと思います。

日本に来た時に言葉が何もわからない。その中で生活しないと、学校に行ってもお客様、何も一言も話をしないで帰ってくる。でも子どもってすごく早いです、日本語を覚えるのが。だから2、3カ月すれば大体子ども同士で話は通じるようになります。また、読み書きもできるようになりますし、少しずつ覚えてもきます。

だけど、字が読める、話ができる、だから勉強ができるとは違います。学習言語と会話の言語はまた違います。それと、読み書きができて内容がわからない、意味がわからないこともあります。

日本語がわかるようになって、どんどんポルトガル語、スペイン語、タガログ語がわからなくなってきました。それで宙ぶらりんになってしまうのです、両方の言葉が。それはとても残念なことだと思います。だから、私たちとしては、どちらかの言葉をしっかりわかってほしいなと思います。

最後にお話したいことがあります。日本人、外国人は関係なく、将来国民の税金で食べる人ではなく、税金を払う人に育てるのが私たち大人の責任ではないでしょうか。ありがとうございました。

【川勝知事】 発言者3さんと発言者4さん、それぞれ重要なお話をいただきました。

発言者3さんは、今の若い女性といいますか、母親が抱えていらっしゃる問題を上手に整理していただきましてありがとうございました。仕事と子育てをどう両立させるかということが一番の大きなことだと思いますけれども、特に発言者3さんの御夫婦のように北海道から来られたとなればお友達がない。

しかし、今ママ友という言葉が普通に使われましたけれども、ママ友の関係をつくっているコミュニティがあるかどうかというのは、すごく大きいですね。今このおやこそだちの会というものを設立されて、発言者3さんと同じ問題意識を持っているお母さん方がいらっしやって、それを共有できることによって子育てにも役に立つし、お友達もできるし、またいろいろな交流もできるということで、このママ友というのは、静岡県35市町、ほとんどのところがこれを奨励するというか、これを大事に育てているはずで、恐らく富士市でもそうではないかと思います。

さはさりながら、お母さんに負担がかかると。それで、子どもを預かってくれる所をどうするかということですが、実は静岡県庁も女性が相当働いています。それで、各企業は企業保育をつくってくれというふうに県としては言っていたんですよ。県庁もサービス産業で企業ではありませんかと、6,000人働いていると、ここに作りましょうと言ったら反対ですよ。県庁の正面に本館があって、海側が東館、内陸側が西館ですが、西館の2階に子どもの預かり所ができるのに5年かかりました。

ですから、子ども預かり所をつくるのもあきらめてはなりません。やらなくちゃいけないと。預ければ病院に行ったり、お買い物に行ったりすることができるし、静岡県庁の場合ですと、そこに預けて仕事もできるというふうになりました。これもなかなか時間がかかったということですね。

それから、発言者3さんは、立派な仕事をされているんですね、御主人と一緒に。研究をされているということで。女性の大学進学率が平成になりまして男と並びました。実は超えたんです。ですから平成元年に18歳だった女の方は、今平成31年ですから、18に30足すと49でしょう。だから49以下は平均すれば学歴は全く変わりません。ですから女の人を男よりも劣っていると、全く思っていないですよ。発言者3さん、そうでしょう。そうなんです。旦那より自分が劣っていると全く思っていないです。同僚の男の子よりも自分が劣っているなんて夢にも思っていないです。それが49歳以下の女性全員がそうです。

だからその年齢以上の学歴の高い男性が中心の時には、女の方は家にいるというそう言う人はまだ世の中の通念になっていますね。だけど、あと10年してごらんください。49歳の方が59歳になります。59歳以下ということになると、管理職に就きます。だからまもなくもう男女が言うまでもなく一緒に仕事をせざるを得ない、要職に女性が就く時代がやってくる。今はその産みの苦しみなんです。それがあと思っています。

ですから、みんな助けようと思っているんですね。ただ、ずっと学歴社会で男が大学に

行って、女の人は嫁に行って家で家事、洗濯をしているという時代は、今過去のものになりつつある。どういうふうにすると一緒にできるか。

我々は今男女共同参画と言っているでしょう。ところが、それでもだめだと言う人も出てきたんですよ。なぜかというと、レズビアンと、それからゲイと、それからバイセクシュアルと、それからトランスジェンダー、LGBT、男でも女でもない人がいるんですよ。13人に1人がそうだというんです。

だから「男女」と言っちゃうと、自分はどっちに入るかわからない人がいる。その言い方を変えろということが出てきています。ですから性差別どころか、非常に新しい時代が今始まっている。そしてそれぞれの体、それぞれの心に応じた仕事をどうつくっていくかというふうにしなくちゃならない時代が、あつという間に始まっているということですね。

ですから、富士市などのように、こういう北海道の人を受け入れる、あるいはブラジルの方を受け入れるというふうな開かれた所、特にそういう街道筋ですから、いろんな人が行き来される所は、そうしたものを先取りすることができるのではないかとということで、発言者3さんのような試みは、それを草分けとして頑張ってもらいたいと思います。

それから、さっき、今保育園から電話があったらどうするかと、私に聞かれました。そうすると、ここに発言者3さんみたいな人がおられて、「知事、こんなことしている場合じゃないでしょう、すぐに行きなさい」と言ってくれるに違いありません。だけど、今はそんなこと言わないと思いますよ。「知事、知事の仕事を放り出して保育園どころじゃないだろう、奥さんに言え」とか、そういうふうな文化がまだある所なんですよ。

それで、発言者4さんは、とても重要なことを言われまして、今静岡県には9万人近い外国人の方がいらっしゃいます。一緒に生活しているんですね。一番多いのがブラジルの方です。ですから、もう共に生活している社会なんですね。県外の人、あるいは町外の人、市外の人だけでなく、国外の方も一緒に生活しているそういう社会に今日本はなりつつあるし、ふじのくに静岡県もなりつつあるんです。そういう社会ですから、差別してはならない、区別してはならないと、そういう気持ちを持たないといけない。

例えば、白鵬は日本の国技の横綱ですよ。だけど、親方籍を取るには日本国籍を取らなくちゃいけないと。そうすると、考えているに違いありません。しかし、モンゴルの名門の所から来られて、国籍を捨てるというのは大変なことです。根無し草になるんじゃないかとすら思いかねませんよね。

ところが皆さん、御存知ですか。今年ワールドカップがあるでしょう。ワールドカップの日本代表のキャプテンは何という人でしょうか。そうです、リーチ・マイケルさんのお父上は何人でしょう。ニュージーランド人です。お母さんはフィジー人です。

高校の時にこちらに来られて、ラグビーでやっていけるというので、あえて日本国籍を取ったから、その時お父さん、お母さんは、本当に心配されたというか、お父さん、お母さんに心配かけているなとリーチ君は思われたに違いありません。だけど、今は堂々と日本国の代表としてやっているじゃありませんか。ですからそういう時代ですね。

ですから、ここで一緒に生活する人と一緒に助け合う。障害のある人、あるいはいろんな差別を受けやすいようなそういう状況にある方もいらっしゃいます。外国の人たちにとっては特に言葉の問題があるから、これをどう助けるか。

例えばこの資料、ローマ字入力でも全然ローマ字で出てこない。だけど、ワープロではローマ字を書いているんですよ。ところが画面には日本語で出てくる訳です。ですから、日本人はローマ字を書いているんです。

ローマ字は音ですから、漢字は出てこないで音だけでしょう。「おや」といえば「OYA」と書けば「おや」というふうに出てくるので、それだけでわかる人も出てきます。ですから漢字も使うし、日本はひらがなも使うし、実はローマ字も使っているので、ローマ字を使って差し上げた方が、早く日本語が上達するということもできるかもしれないと思ったりします。

それから、発言者4さんがおっしゃいましたが、ぜひおやこそだちの会のような所に、母親として皮膚の色だとか、宗教だとか、国籍を関係なしに、母として異文化に接するということもある意味でメリットですから、そういうふうにしていくというのを富士市から始めてほしいですね。

ちなみに、日本で一番ブラジル人の多いのは愛知県、2番目が静岡県です。そして今度皇太子から天皇になられる徳仁皇太子殿下、あの方が22歳で最初に公式の訪問をされた国はどこでしょうか。ブラジルです。今度、皇子といますか、皇太子、今の浩宮様に続いて天皇になられる地位に近い方が秋篠宮様ですが、秋篠宮様が最初に行かれた国はどこでしょうか。ブラジルです。それから民間に降嫁されました黒田清子様も、一番最初に行かれたのはブラジルです。

あそこには1908年以来、何十万もの人が行って、日系人が200万人近くいらっしゃって、

そこを国の統合のシンボルが一番大切に思われている訳ですよ。ですから、私どもはこれを財産として、ブラジル系の方たちを迎えなくちゃいけない。

ちなみに、私は文芸大の学長をしていた時に、ブラジルの子どもを中心にいろいろとやってきました。そして今でも卒業式や入学式に必ず行くんですが、一昨年の卒業式の総代、トップですね、その人が答辞というですか、御礼の言葉を述べられたんです。

途中で、「申し訳ありません、私母国語でいきます」と言って、母国語でおっしゃって、はらはら、はらはら涙を流されている。彼女が何を言ったかと後から聞きましたら、保護者席にお母さんがいらしたらしいんですよ。お母さんは答辞の日本語なんて難しいからわからない訳ですね。

彼女が10歳の時に来たんですよ、こちらに。日本語は全然わからないと。それで、勉強、勉強して、そして大学に普通に入学試験で受かって、1番で出た訳です。「お母さん、ありがとう、出稼ぎの娘でもここまでできるのよ、本当にありがとう」と言ったんですね。ですから感動しました。みんな後からその話を聞いて感動しましたよ。

だから、こういう子は「素晴らしいね、よく努力したね」とみんな誉める訳です。だからこういう子をどんどん育てていきたいと。そしてどこの国の人にも差別しないと。Dreams come true だと。努力さえすれば夢を実現できますよと。

この総代の子は今、ブラジルの飛行機を輸入している会社に勤めました。なぜかという自分とはポルトガル語もできる、日本語もできるから、両方のお手伝いができるからということで、自分の母国の言葉を活かす所に行きました。そういう優れた人もいます。そういう方を支えている方がこういう発言者4さんのような方なんですね。

我々それを知って、今後の社会づくりに活かしていかなければならないと、つくづく思った次第であります。ありがとうございました。

【発言者5】 こんにちは。富士高原スイーツ工房という会社で広報を担当しております発言者5といたします。広報担当といいながら、人前で話すことはとても苦手なので、本日も大変緊張しておりますけれども、よろしく願いいたします。

富士高原スイーツ工房は2009年に創業したケーキの製造工場で、今年でちょうど10年になります。元々は冷凍倉庫業と冷凍食品の一次加工をしていた場所なんですけれども、そのオーナーであった私の父と、現在弊社の副社長をしておりますパティシエ、そのふ

たりが会って、下請けからの脱却を目指して、富士山の麓という立地を活かしながら、この静岡から美味しいスイーツを発信すべく、立ち上げた会社です。

とはいえ、父は昔から冷凍倉庫業一筋でやっておりましたので、スイーツの知識はまるでなくて、ちょうど就活のタイミングだった私と、それまで専業主婦だった私の母に手伝ってほしいという話がありました。正直なところ、それまで学生だった私は、右も左もわからないような状態でしたし、母も外に働きに出たことはありませんでしたので、飛び込んでみたは良いんですけれども、いきなり実地訓練をさせられるような状態で、緊張と失敗と学びの連続といった感じでした。

その上、私たち家族は実は静岡市の清水に住んでおりますので、初めのうちは富士市に知り合いもほとんどいなくて、途方に暮れて助けを求めたのが、皆様の中にもお世話になっている方がいらっしゃると思うんですけれども、富士市産業支援センターの f-Biz でした。

センター長さんに、ちょうど今私がお話したようなことを伝えると、私たち親子のことを大変おもしろがっていただきまして、私が広報という立場になるきっかけになったブログの開設を進めてくださったのも f-Biz の方々でした。

そのブログそのものは、今はもう更新はしていないんですけれども、富士市に知り合いのいなかった私にとって、地域を盛り上げようとして頑張っているいろんな方からお話を伺うことになるきっかけといたしますか、皆さんとつながらせていただくきっかけになって、窓口になってくれました。

直接的に大きな販路につながることは少なくとも、うちの会社を知っていただいて、私と知り合ってもらって、いろんな方からお話を聞いたことは、私にとっても今でも大きな財産になっています。

当時まだ 20 代前半だった私が、普通に生活していたら絶対に知り合えないような年代や業種の方と、男女問わずに仲良くしていただいて、フェイスブックなどの SNS でもいまだにつながらせていただいて、時には飲みにも誘ってもらうこともあるんですけれども、とっても貴重な経験をさせていただいていると思っています。

ですけれども、これ本当に私の力不足なんですけれども、富士高原スイーツ工房は、まだまだ発信力の弱い会社です。下請けからの脱却を目指して立ち上げた会社で、実は自社の名前でケーキを全国に発売しているんですけれども、恐らく今、この会場内にも富士高原スイーツ工房を御存知の方、少ないんじゃないかと思っています。

先ほど知事と発言者の皆様には召し上がっていただいたんですけども、弊社が今力を入れている商品の1つに「駿河湾の塩ロール」という商品があります。朝霧高原で育てられたニワトリの卵をたっぷり使って、ふわっと仕上げた生地に、駿河湾の海洋深層水から採れたお塩をほんのりきかせたロールケーキです。

パッケージのデザインも県内の会社をお願いして、富士山をイメージしたブルーを基調にしてもらいました。今は富士山静岡空港のお土産売り場と、東名高速道路下りの富士川サービスエリアに置いていただいています。

また、昨年、ふじさんめっせで行われたふもと博のグルメコンテストにおいて、スイーツ部門でグランプリもいただくことができました。

それでも、富士高原スイーツ工房も、駿河湾の塩ロールも、まだまだ知名度がないんです。なので、今日はぜひ知事にこの商品を知ってもらいたくてお話をさせていただきました。

こういうふうには、つくることができても、広く知ってもらうことができない、力が足りない、機会が足りない、そんな中小企業はまだ多いです。そんな企業が自分たちの商品やサービスを発信できるための場所や方法、それからその発信力を鍛えるためのバックアップなんかを、県にもぜひ力を入れてやっていただけたら良いなと思っています。

それこそ、富士市にはf-Bizがあるんですけども、市だからできることと、県だからできることと、さらには県と市とで密に連携をとってやっていただくことで広がっていくものがかかなり大きいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

私自身が、全くノウハウのない状態から今の会社に就職して広報を担当することになったという立場だからこそ、ぜひお願いさせていただきたいと思っています。よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

【発言者6】 株式会社トヨコーの代表を務めています発言者6と申します。よろしくお願いたします。最後になりますので、よろしくお願いたします。

私は40半ばになるんですけども、若い時に8年間ほど東京の方でデザインの業界にもまれまして、縁があつて15、6年前に実家の家業である塗装屋を継ぐことになりまして、2代目の社長になります。

戻ってきて最初に思ったのが、ちょっとショックを受けたんですね。前職ではものをつくるのが日々当たり前のような、常に考えて、常にものをつくるというのが当たり前でいたんですけど、建設業の塗装業って新しいものって全く生まれなくて、与えられたものを塗

るといふ、こういう所にすごく違和感を感じて、せっかく現場をやっているんですから、現場でやっている目線でものづくりをしてしまおうという所から、会社の考え方を少し変えたといふか、そういう形で今取り組んでおります。

当時思ったのが、まず会社をブランド化できないかということを考えて、我が社ではいろいろな取り組みをしてまいりました。特に3Kの商売なものですから、きつい・汚い・危険、私もそれが嫌で東京に出ていったんですが、まさか戻るとは思っていなかったんで、この3Kに真剣に向き合ってみようというふう考えたんですね。

3Kを3Cに変えられないかと、クリーン、クール、クリエイティブな仕事がしたい、こんなのはまさしくデザインの業界がそういう業界だったものですから、それに加えて現場は非常に臨場感がありますので、この危険である緊張感のある現場を何とか芸術とテクノロジーの技術で変えていきたいという、そんなことをずっとやり続けております。

我が社では2つの事業を立ち上げようと思ひまして、塗装屋なので単純です、塗り替え、要するに新しいものの仕事は私どもはやっていなくて、古くなった財産を新しく蘇らせる、こういったことに特化しておひまして、塗り物なものですから、塗る工程、それと塗る前の処理、下地処理というんですが、傷んだもの、錆とか、塗装を剥ぐ、削る方ですね、その2つの工程を事業化しようというふう考えたひました。

14年前に先に塗る方の技術、ちょうど富士市は工場がいっぱひありますので、工場の汚い屋根ですね、アスベストが入っているああいったスレートの屋根と呼ばれるものですね。特殊なコーティング技術を開発しひまして、今それが会社を支えております。これで全国展開を図っているという形です。

じゃ下地処理、もう1つやってみようじゃないかということで、ちょうど今から10年前から開発を始めたのが、レーザーで錆を取ろうというふうに行き当たりました。冒頭、塗装屋がレーザーというひ、なかなか結びつかないんですが、単純に下地処理というものを新しいテクノロジーでやってみようという形で、レーザーでやるように。これを研究するために、私は全くの素人だったものですから、まずやったことがレーシックをやりひました。近眼手術ですね。真面目にやりひました。

その後、浜松に研究所を構えひまして、光のパイオニア企業と言われている会社が代表になってつくった光産業創成大学院大学、社会人向けの博士課程の大学になります。こちらに私6年間所属しひまして、一から先生方と一緒に共同でつくっていくという形です。

1つレーザーポイントを持っていますので、これは危ないものじゃありません。これを

使って原理を説明したいと思います。非常に便利でして、光を飛ばせます。飛ばしても、例えば錆を取っても、反動がない。我が社ではこの光をプリズムという装置の中に打ち込みますと曲がって出ます。水中に光を入れると曲がるようにですね。その曲がるそのもののプリズムをぐっと回すことによって、くるくる、くるくる光が回り出します。これを超高速で回すことによって、この範囲の錆が取れるんですね。これを動かすだけです。なので、今日持ってきてないんですが、このレーザーポインター、スイッチ1つ、この作業と全く同じものを少し大きくしたものが、今の我が社の製品となっております。

これによって得られるものとしまして、女性でもできる。反動がない作業になりますので、女性でもできる。ごみが出ない。一番日本で困っている塩害、錆の元となるものは塩分なんですね。この塩分をレーザーによって蒸発できるんですね。一瞬で蒸発プロセスまでできるのが非常に特徴です。

こういったものを、長年知財で悩んできたものですから、非常に我が社では知財に金を投じております。縁あって弁護士に顧問になっていただいています、弁護士が知財戦略に入ると非常におもしろいんですね。通常なら弁理士さんが入るんですが、弁護士さんが入ることによって、契約であり、戦略であり、こういったものにアドバイスをいただける。非常に有意義なプロセスを今やっております。

ビジネスをやっていく上で、非常に10年間苦しんでいるんですが、ものはある程度4、5年前につくりました。安全・品質というのをどうしたら良いかというのが、これは問題になります。新しくハイパワーのレーザーを現場に出して、足場の上で錆を取る、こういったものは世界に探してもなかったものですから、特に品質、安全、こういったものをするために、品質の所は今経産省さんの力を借りまして、まず日本の規格をつくっております。JIS規格ですね。私も委員となって規格をつくっておりますが、もうすぐ3年目なので1つ目の規格がつくれようとしています。

安全に関しては、研究会というのを立ち上げまして、やはりいきなりどこかわからない国から持ってきて、これを販売して事故を起こしてしまう、これが我々にとって非常に脅威になるものですから、こういったものを守るために研究会を立ち上げて、国を巻き込んでやっています。

こういったものを橋ですとか、海の分野の船ですとか、または応用しまして、地元の電力さんともやっているんですが、除染、廃炉ビジネスがこれから始まりますので、汚染さ

れたものをレーザーで取って排出する、分離して処分する、こういったものに今取り組んでおります。

せっかく知事を目の前にして場をいただきましたので、1つお願いがございまして発言させていただきます。こういった新しい技術は非常に県、市もそうですし、国からもずっとこの10年間補助金もいただいて、お金が足りなくなっただけで、事業会社から増資しまして、そういう形でやっているんですが、肝心なのは現場でして、県の方から新技術登録というのをいただいて、まだ実績が少ないのにこの技術を使っていこうと、そういうチャンスまでいただいているんですが、本当の気持ちは、こういった現場で実績を上げたいんですね。

なので、安く橋を買いたいと思っております、これ冗談ですけども、橋を買えないかなと最初思っていて、こういった現場がありますと、我々のものづくりって現場から生まれるんですね。こうして、こう改良しよう。これが遅れますと、本当に今海外からこの技術にすごくわあっと来ていまして、海外に売るモデルをつくってないんですね。

当面日本で何とかこの技術を広めようと思っております、せっかくこの静岡県は川も多いし、ということは橋が多いんですね。古い橋が非常に多く集まっている、もう70年、80年たつ橋があるんですね。建設設計からいうと、もう50年で寿命を迎えるような構造計算なんですけど、これを国が100年に延ばそうという計画を出しております。

こういったところに、現場が少ないものですから、なかなかものができたんですけども、試すのになかなか時間がかかる。こういったもののスピードを速めるために、県で実績を上げたいんですね。これを本当にオープンにして、マニアの方も最近いますし、全国からこういった新技術をやっている所を見ていただきたいなど。こんなのを県で御協力いただけたらありがたいなというふうに思っております。

最後になりますが、県を代表する優良企業に将来なりたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

【川勝知事】 驚きました。おふたりに共通しているのは、全く違うものを結びつけるということですね。発言者5さんの所はお父上の冷凍技術とお菓子づくり、パティシエの名人とが出会って、それで素晴らしいお菓子をつくったと。

今日ここに並んでいる人は、駿河の塩ロールをいただきまして。私は持ってきてここで

見せると言ったんですよ。ところが、発言者5さんの方でどうしても食べなさいと言われてたので。いかかでしたか、美味しかったですよね。

それで、海洋深層水の非常に良質の、ちょっと塩っぱさと、それから朝霧高原の本当に健康そのものの卵が上手に使われて、柔らかいロールケーキになっているものなんですね。先ほど富士山静岡空港に置かれているというので、すごいなと思いました。

もう1つ、どういうふうにしたらこれをPRできるか。こちらはすごいお菓子メーカーもあるでしょう。これはまた全く違う技術が御一緒になったということです。富士山女子駅伝であるじゃないですか。あれ今年5年目か6年目じゃないですか。女の子は皆甘いものが好きですよ。

大体お母様とお嬢様、すなわち発言者5さんとで、その味を、しかも本当に味覚の高い親子であるということが、食べてみてすぐわかったんですけども、ともかく富士の方は、生シラスなんかで味覚が肥えてますからね、それに応じたお菓子づくりということで、成功されつつあるということで、まだ10年ほどだということですから、これからもっと楽しみですね。

それで、富士山女子駅伝は暮れにやって、そして箱根駅伝は正月にやると。これはそれぞれ女子と男子の名物にしていこうというのが目的でありますので、そこで上手に使ったらどうかと。景品はこれですとか、大きく出せばよろしいんじゃないかと。特に糖分が要りますからね、寒いし。そういうふうなこともあるかなと思いました。

それから発言者6さんは、これはもう驚きましたね。似ている所は発言者1さんと一緒に、40代で15、6年前に戻ってきたと。発言者1さんの所は20代の後半ぐらいに戻ってこられたということで、ほぼ一緒ですよ。親父さんの所に戻ってきたと。それぞれ向こうでの経験が、発言者1さんの場合には、自分のふるさとの良さを知ることができた。

発言者6さんの場合は、こんな仕事は嫌だと思ってデザインという全く美しいものをつくる仕事をしておられて、その感性を持ってこられたので、3Kを3Cに、クリーン、クール、それからクリエイティブですか。もうすごい発想の豊かさというのに驚きましたが、それにも増して光創成大学院大学という浜松ホトニクスがつくっている、先ほど御紹介がございました大学院大学で6年間もやったと。

あの光創成大学院大学の元になっているレーザーづくりが、光を電子に変えて、そして拡大して、どういう流れがあるのかということを見つけるということで、それで今まで全く知られていなかったニュートリノを見つけたり、ニュートリノに質量がある、重さがある

ということまで見つけたりする、もう世界最高級の技術です。そこの研究所の大学院で6年間修行されたと。

それでこの下地をきれいにするためにレーザーを使うという、そして橋をかうとおっしゃった。それを現場にしてみんなに見せたいと。富士山を仰いでいる所から出てくる発想というのが、ばかでかいですよ。橋を1つきれいにして、それを見せてあげるから、それを現場にして、静岡から出していったらどうかと。

これも知財といいますか、今アメリカと中国でけんかしているじゃないですか。きっちり権利を守る必要があるということで、そうしたものを国際的にきっちり守る法律がありますから、そうしたものもきっちり踏まえて弁護士を入れてやってらっしゃるというのですから、これは大化けして、お父上が偉いと思いますね。

なぜかわからないですけども、お父上が偉いように思うんです。恐らくお父上が偉いのはお母様が偉いからじゃないかというふうに思いまして、その御両親に対して楽をさせるといいますか、喜ばせるための親孝行息子がこの発言者6さんじゃないかと思って、これは県のためにもなるし、国のためにもなる。

今除染と最後におっしゃったでしょう。実は最大の難しい除染の相手は放射能です。ですから放射能をどう除染するかというのは、もう福島第一原発、あるいは浜岡原子力発電所も全部で5つの原子炉があるんですけども、3、4、5号機はまだ使えると。1号機、2号機は、これはもう使い切りましたので廃炉という解体する作業をやっているんですけども、だんだん、だんだん原子炉の近くに行くと、様々に汚染された材料と向き合わねばなりません。それをどう除染するかという時に、差し当たって可能性があるのがレーザーだと言われている訳ですね。

そういうふうに、その技術が今発言者6さんの所では除染だとか、下地をきれいにするとか、錆を取るとかというものに、錆を取るとは誰にもこれの重要性はわかります。しかも塩分が出ない、全部蒸発させると。非常に理論的ですよ。

だから御両親の一番良い頭脳を受け継がれたなと思ひまして、どうしたらこの方を育てられるかということで、橋を1つ差し上げますか、あるいは船を1つ差し上げると、どういうふうにするか世界に発信できるかということですね。そういうふうと一緒に考えていきたいと、今考えていらっしゃると思いますけれども、そんな夢を抱かせるお話をトヨコーさんの社長から聞いたということでございます。ありがとうございました。

【傍聴者1】 インフルエンザの具体的な対策として、小学生を行政の方から予防接種をさせると、させると言うと言葉が悪いですけども、私も聞いていたんですけども、役所の方も学校へはなるべく予防接種をしてくださいと。学校は家庭にも同じようなことを言っているらしいです。

だけど、実際考えると、共働きの人が多いから、子どもの具合が悪くてもちょっと病院に行きそびれちゃう。そのうちに子どもはインフルエンザにかかる。そうすると親も会社を休まなくちゃならない、こういう状況がある。

私は今言ったように、逆に行政の方から教育委員会の方から学校へ、予防接種を先生方に言ってもらって、歯科検診のように、そういうふうに勧めたらどうかと。ちなみに富士市は、お金の方は1,000円補助してくれるそうです、確かかわかりませんが、それを県下統一して予防接種を推進したらどうか。

あと1点だけ、先ほどラグビーの話がありました。ファンゾーンを西部と中部はつくるらしいですね、静岡と浜松に。東部はない訳です。ぜひとも考えてもらいたい。

それからもう1つ、駅伝の話も出ましたけれども、先日の日曜日に都道府県対抗の駅伝がありました。テレビ見て、男子のユニフォームがわからない訳です。静岡には昔からオレンジ旋風という言葉がある。知事は体協の会長でもあるし、国体の時にあの鮮やかなオレンジのユニフォームで入場されます。あれに統一というか、あれを使ってもらいたい。これを何回か僕は県の方へ申し入れましたら、ユニフォームは体協だと、そのままになっちゃっているんですけども、ぜひユニフォームをオレンジ色にして、色鮮やかな姿で、テレビをわくわくどきどき見たいと思います。以上です。

【川勝知事】 いずれも説得力あるもので、富士市でインフルエンザの予防接種で1,000円の補助が出てやっているということであれば、今もインフルエンザが静岡県を席卷していますので、そういうことをできるかどうか、うちの健康福祉部と教育委員会と相談させてください。富士市でやっていらっしゃることを見せていただこうと思います。

それからユニフォームですね。わかりにくいのはユニフォームにならないですよ。どうしたら良いか、オレンジ。だけど、ジュビロの方は青なんです。わかりました。

ファンゾーン、もっともです。恐らくラグビーの組織委員会、ワールドカップの組織委員会の御許可なんです、何か所とか決められて、うちはたまたま東中西がある。他の地域は2つに分かれているとか、例えば島根だと出雲と石見とか、うちはたまたま東中西で

すけれども、そういうことによるに違いなくて、通常であれば3つでやるはずですが、もう1回ちょっと確認してみます。良い御指摘ありがとうございました。言われるのはもっともだと思いました。

【傍聴者2】 富士市内に在住の「ふじの国薬膳」という活動をしております傍聴者2と申します。

先ほど発言者3さん、それから発言者1さん、発言者2さん、発言者5さんがやられていた活動に対して、「ふじの国薬膳」では県民の方に未病に気づいていただき、その未病を8体質に分け、それを具体的に実行する食べ物ですとか、温泉ですとか、調理器具、フライパンですとか、ケーキですとか、そういうもの、あと未病健康ツアーというのを企画しております、自転車に乗って県内を散走というようなことも考えております。

これを全国に先駆けて静岡県から発信することで、富士山頂から駿河湾の海底までの標高差6,276mございますこの標高差を活かすと、ふじのくににその8体質の方たちに合わない食材がないという、そんな素晴らしい薬膳の聖地がこのふじのくにだというように私は感じているんですが、そういったことをして、この皆さんの活動を1つにつなげていくというそういう案を、すみません、ちょっと拙いしゃべりでしたけれども、提案したいと思うんですが、知事様はいかがお考えになられますでしょうか、お願いします。

【川勝知事】 まず未病というのは、未来の「未」という字に「病」という字を書くんですね。そして皆さん元気ですが、元気の反対は病気ですね。病気と元気の間に未だ病気ならずということで、未病という、誰も完全元気もいなし、完全病気もない。だからその中間にいる未病の方をなるべく元気にしていこうというのが今おっしゃったお話だと思います。

そのためには体の体質が幾つかのパターンに分かれると。それに応じた食材があるということで、それを活用したらどうかという話で、この話はもっともなことであります。しかも、それが一番できやすいのは静岡県だとおっしゃいました。

その根拠は、農産物が339品目あります。2位は158品目しかない。うちはシラスほか、サクラエビやいろんな海産物が100品目ありますね。それら海産物も入れると合計439品目もあるんですよ、食材が。2位は218品目しかありません。218×2は436でしょう。

436 よりも 3 つ多い 439 の食材があるので、どういう体質の人にもそれを合わせた食事を提供できるというお話なんですよ、原理的には。

さあ、これをどうしていくか。体質をどのように分けていくかとか、これを検査しなくちゃいけない。今検査をするカードなんていうのもできているようですが、これは神奈川県の方から始まって、今一生懸命それを宣伝しようとされておりますが、健康寿命をいかに延伸するか。健康で長生きしていくということが大切ですから、そのためには運動を継続する、このように社会参加される、もう 1 つが食事なんです。

その食事の 1 つの提案として受け取りました。すぐにといい訳にいきません。なぜかというところよくわからない所がまだあります。経験的にこうすると一番良いということがわかっておりますけれども、我々は機能性食品だとか、いろいろと食については食と健康を合わせながらやっていると。

今、私が拙い形で説明しましたがけれども、未病についても、それからそれに関わる食事療法といいますか、療法じゃないですね、体に合った食事についても知っております。こうしたものをフーズ・サイエンスセンターであるとか、こうした所で研究していただいておりますので、未病というコンセプトを使うかどうかは別ですけれども、そのように受けとめたと、関心は一緒だということですね。

まずは小さな所から始めていって、それが県の運動、あるいは富士市から県の運動に広がっていけば良いというのが今の差し当たっての私の考えです。